

■ 部局ニュース

文学研究院がメルボルン大学と共同研究ワークショップを開催

文学研究院は、11月7日（月）から11日（金）、メルボルン大学との共同研究ワークショップ「Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund 2022 "Healthy Ageing and the Good Life"」をハイブリッド形式で開催しました。

本ワークショップは、文学研究院のKerrin Artemis Jacobs特任准教授（哲学倫理学研究室）とメルボルン大学のWilfred Yang Wang博士が共同で申請し、今年6月に採択された「Hokkaido-Melbourne Joint Research Workshops Fund（共同研究ワークショップスファンド）」5件のうちの1つとして支援を受けました。

当日はメルボルン大学から共同申請者であるWang博士とShashini Ruwanthi Gamage博士が来学し、ファカルティ

ハウス「エンレイソウ」及び遠友学舎で行われたワークショップには多くの学生や研究者が参加しました。

初日は、Jacobs特任准教授の開会挨拶に続き、藤田 健文学研究院長とメルボルン大学Russell Goulbourne人文学部長から開会にあたっての祝辞と同じ課題に取り組む今後の共同研究や協力と発展への期待についてスピーチをいただきました。

続いて藤田研究院長とWang博士が両校のギフト交換を行い、メルボルン大学からはマスコットと校舎がデザインされたスノードーム、北海道大学からはアイヌ模様のタペストリーが贈呈されました。

ワークショップでは、Healthy Ageing and Institutional Designを主題に人間

知・脳・AI研究教育センターによるHealthy Ageing and AIの回や応用倫理・応用哲学研究教育センターの宮嶋俊一教授（宗教学インド哲学研究室）や清水香基助教（社会学研究室）による「Healthy Ageing, Spirituality, and Life Satisfaction」をテーマとした回、「Gender sensitive view on Healthy Ageing」をテーマにSharon J. B. Hanley特任講師（環境健康科学研究教育センター）が発表する回があり、最終日はFuture Strategy Dayとして、遠友学舎で今後の研究協力や共同研究についての建設的なディスカッションが行われました。

（文学研究院・文学院・文学部）



両学部長を紹介するヤコブス特任准教授



ギフト交換（左:藤田研究院長、右:Wang博士）



メルボルン大学からはオンラインで参加



最終日のディスカッション